

平成28年度全国高校総体バスケットボール競技静岡県予選 大会展望

文責・静岡県バスケットボール協会広報委員長
中島 洋己 (静岡県立科学技術高校教諭)

平成28年度全国高校総体(インターハイ)バスケットボール競技静岡県予選は5月21日、駿河総合高校体育館他で開幕する。男女とも地区大会を勝ち抜いた32校が出場し、4ブロックに分かれたトーナメントのあと各ブロック1位校による決勝リーグが5月28日、6月4日に焼津市総合体育館(焼津シーガルドーム)で行われる。男女とも上位2校が7月31日に広島市・広島サンプラザホール他で開幕する全国高校総体へ、上位3校が6月11日、12日に岐阜市・岐阜メモリアルセンターで開催される東海高校総体への出場権を獲得する。

【男子】

ここ3年間、常に飛龍、沼津中央、藤枝明誠、浜松学院が県4強の座を堅持し、県3大会(県総体、WCカップ県予選、県新人)では優勝を飛龍3回、沼津中央1回、浜松学院1回、藤枝明誠4回と互角に分け合ってきた。今年もこの4強時代が続く中で、優勝候補の本命として、県新人優勝、東海新人3位、そして圧倒的な強さで県総体西部地区予選も制した**浜松学院**を推したい。浜松学院中時代、平成25年の静岡全中優勝や翌26年の香川全中3位を経験したメンバーが主力となり、まさに戦力充実期にある。抜群のリーダーシップでチームを引っ張る**伊藤颯太**(3年)、インサイドでもアウトサイドからでも得点を重ねられるオールラウンドプレイヤー・**田中旭**(3年)、確実性のある3Pシュートでチームの士気を高める**横川真那斗**(3年)、リバウンド、ルーズボールなどの「泥臭い」プレーをひたむきにこなす**横山寛太**(3年)、驚異的な跳躍力で時にダンクショットを繰り出す**ダシルバヒサシ**(2年)、下級生ながら東海新人3試合すべてにスタメン出場した**石川晴道**(2年)など戦力はタレント揃い。個の力からチームの力へ有機的に機能できれば3年ぶりの全国総体出場はもちろん、前身の興誠高校時代の平成10年以来18年ぶり11回目、そして浜松学院として初めての県総体優勝も見えてくる。

対抗としては東部予選覇者の飛龍、中部予選覇者の藤枝明誠、そして東海新人準決勝で浜松学院にも快勝した沼津中央。**飛龍**は県新人決勝で浜松学院に敗れたが、県総体東部予選決勝で同地区永遠のライバル、沼津中央を破り東部を制した。1年時からインサイドを守る中国人留学生・195cmの**馮俊凱**(3年)を中心にロングシュートを得意とする**廣岡耕平**(3年)や得点源・**伊東潤司**(2年)など高い得点力を誇る。さらに東部予選決勝で途中出場した**関屋心**(1年)が予想以上に得点に絡むいい働きをし、チームに勢いをつけた。ただ昨年

から出場機会を得ていた**松下裕汰**（2年）の怪我の復調具合が気がりではある。その飛龍に東部予選で惜敗した**沼津中央**は県内最高身長2位のセネガル人留学生・**サンブー・アンドレ**（2年）を生かしたインサイドプレーを軸に得点を重ねていくのが特徴。しかしながら相手チームによる研究も進み、執拗なマークに時折いだちを見せることもあり、周りがどれだけサンブーを助けられるかが勝敗の鍵を握ってくる。サンブーにマークが集中している隙にインサイドから**山田陸**（3年）、アウトサイドから**鈴木翔**（3年）、**宮澤亮**（3年）が得点チャンスを増やしていけば相手を一気に突き放すだけの破壊力を持つチームである。攻守に堅実な働きをするキャプテン・**藤原佑介**（3年）のいぶし銀な働きにも注目したい。

中部予選覇者の**藤枝明誠**はこの4月に指揮官が交代、新しい体制でスタートを切った。司令塔として切れ味のある突破力を誇る**森大空**（3年）が落ち着いてボールを運び、**富田一成**（3年）、**石井竜馬**（3年）、**南サーマン**（3年）、**張新鋒**（2年）など身長190cm級のセンター陣が鍛えられたフィジカルでゴール下を支配し得点を奪う。スタメンの平均身長では4強の中でも随一で、さらには地区予選では出場機会のなかった192cmインド人留学生**アダルシュ・ジャヤクマール**（1年）の出場も考えられるだけに、平成18年以来10年間続く全国総体出場の記録をさらに伸ばす可能性は十分ある。また他県出身選手が多い中、県内出身選手である**照井龍次**（3年）、**富永涼介**（3年）、**高木卓也**（2年）らのプレーにも注目が集まる。

この4強の牙城に挑むのが浜松開誠館と伊豆中央。**浜松開誠館**は創部以来常に県8強をキープ、3年前の平成25年には東海総体出場の実績もある。「フィジカルバスケット」をチームの信条とし、3月の強化遠征県選抜選手にも選ばれた**二村響**（3年）と広い視野を持ち、シュートエリアから放たれるボールの軌跡が魅力的な**神田諒成**（3年）の活躍で、まずは決勝リーグ出場を狙う。そのためにはブロック決勝で予想される沼津中央への「高さ対策」がカギとなる。伊豆中央は修善寺中出身で静岡全中出場にも出場した**井村大我**（3年）、**鈴木敏哉**（3年）、**遠藤一真**（3年）に加え、県選抜選手の**山本貴斗**（3年）の成長も著しく、浜松開誠館同様4強に迫れる可能性のある数少ないチームである。東海総体に出場した平成19年以来の決勝リーグ進出を果たすことが出来るか、県新人8強の三島北とともに公立高校の意地に期待したい。

その他、前出の三島北、中部予選準優勝の**静岡学園**、爆発的な突破力が魅力のWエース・**大塩智寛**（3年）、**池谷駿佑**（3年）を擁する**城南静岡**、そして西部予選3位の古豪・**浜松西**も上位進出、そして東海総体出場を虎視眈々と狙っている。

【女子】

ここ数年、女王・常葉学園の独走状態が続いていたが、その常葉学園が県新人準々決勝で敗退、優勝は西部の浜松学院が勝ち取った。しかしその浜松学院もこの西部予選決勝で浜松開誠館に惜敗。この県総体は上記の3チームに、中部予選準優勝の駿河総合、東部予選覇者の市立沼津を含めた5チームの大混戦が予想される。

浜松学院は、西部新人および県新人決勝で浜松開誠館に連勝し、西部地区として26年ぶりの県新人優勝を勝ち取った。台湾遠征県選抜主将も務めたチームの大黒柱、175cm・古野実希（3年）、同じく県選抜選手、県新人決勝で3Pシュート6本を含む27得点を記録し優勝の原動力となった添田南葉（3年）、絶妙のパスワークで相手のディフェンスを幻惑する加藤百夏（3年）に加え、インサイドを古野とともに、173cmの添田涼葉（2年）、174cmの新村茉亜子（2年）が固める。高さや突破力では他の追随を許さないだけに、まずはその多彩なオフェンスでリズムをしっかりと作り気持ちよくディフェンスにつなげていければ初の全国総体出場、そして県総体優勝も視野に入ってくる。

浜松開誠館は県新人準々決勝で3年間県内無敗を誇ってきた常葉学園に勝利、決勝で浜松学院に敗れ惜しくも準優勝となったが、県総体西部予選決勝で浜松学院に雪辱、西部予選14連覇を達成した。総合力では先述5チームの中ではナンバーワンと言っても過言ではない。どんなポジション、どんな体勢からも確実なシュートを放つ司令塔・陽本麻優（3年）、高い得点能力に加えリバウンドにも能力を発揮する石田悠月（2年）、常葉戦で1Q3本の3Pシュートを決めるなど空中戦も得意とする栗田真生（3年）、スピードあふれる動きでゴール下から得点を重ねる樋口栞帆（2年）などがチームを支える。ずば抜けた選手はいないが、チーム一丸となり努力と執念でボールを追い続け、8年ぶりの全国総体出場を初の県総体優勝で果たすことができるか、注目である。

東部予選覇者・市立沼津は県新人3位決定戦で延長の末、駿河総合に勝利、東海新人切符を勝ち取り、3年ぶりに出場した東海新人でも初戦で県立岐阜商業を破り東海大会勝利を飾った。東部予選も危なげなく勝ち上がり、県総体に向け仕上がりは順調である。チームを牽引する主将・小野愛加里（3年）を始め、台湾遠征にも参加した武藤誉敬（3年）、市川千風（3年）など非凡な選手を多く擁する。バスケットの基本であるディフェンスとリバウンドを徹底し、全国ベスト8に入った平成25年以来の全国総体出場、県総体優勝を目指す。

中部予選準優勝の駿河総合は3年連続の全国総体出場、そして初の県総体制覇を目指す。ドライブの切れ味抜群の西村茉優（3年）、大怪我から復帰してチームの原動力となっている青島沙季（3年）、ボディバランスも良く高いバスケIQを持つ長嶋アンソニー真弥（2年）、非凡なシュートセンスが魅力の小山内パメラウーゴ（2年）など戦力も多彩である。このチームの鍵はゴール下を守る、県内最高身長・178cmセンター・加藤陽（3年）の

出来次第である。リバウンドに入る際の初動スピード、スクリーンアウトでのゴール下の支配位置などさすがに県選抜選手とうならせる技術を持ちながら、中部予選決勝の常葉学園戦では従来の持ち味を十分に発揮できなかった。常葉学園とは順調に勝ち進めばブロック決勝での再戦が予想されるだけに、高さを生かした加藤のプレーがうまく機能すれば駿河総合の勝機も十分にある。

県総体連覇中の**常葉学園**は県新人準々決勝で浜松開誠館に惜敗、東海新人出場を逃したが、県総体中部予選決勝で駿河総合に快勝、持ち前の強さを発揮した。篠宮、見崎、河合、柴らの主力が抜けたが、ここ1年で劇的にシュート成功率が上がりチームの得点源となっている**高橋夏瑠**（3年）、アウトサイドシュートに非凡なポテンシャルを感じさせる**伊東かおる**（3年）、キャプテンに就任し、チームの精神的支柱となっている**伊東ひかる**（3年）、そしてゴール下には公式戦や台湾遠征などで経験を積んだ**野本陽香**（2年）を擁し、さらには**山下あい**（2年）も徐々にプレイングタイムを増やしチームプレイに貢献し始めた。まずはブロック決勝で予想される駿河総合との再戦を勝利し、6年連続22回目の全国総体出場、そして県総体3連覇に弾みをつけたい。

上記の5強に迫るチームとして、中部予選3位決定戦で延長戦の激闘を演じた、**東海大静岡翔洋**を挙げたい。その3位決定戦は延長戦でエース・**濱本希代加**（3年）が得意の3Pシュートを決め勝利を勝ち取った。濱本はここぞという時のシュートへ持ち込む判断力は天才的なものがある。台湾遠征にも選ばれた173cmセンター・**西村紗那**（3年）、西村を助けチームを鼓舞する・**平田萌香**（3年）、西村とともにインサイドを任されている**石川彩美**（3年）、怪我から復帰し持ち前の高い得点能力でチームに勝利を呼び寄せる**糟屋栞里**（2年）などチームが勢いに乗った時の強さは他チームも警戒するところ。昨年この大会は上位チームを次々倒し、見事初の決勝リーグ出場を果たした。結果的には3敗に終わったが、その時の経験が現在の翔洋を支えている。まずは2年連続の決勝リーグ出場を目指す。

このほか、エース・**山藤歩**（3年）に加え、中学時代に全中出場経験を持つ1年生が多く加わった**藤枝順心**、東部予選準決勝で沼津中央に勝利し初の東部2位での出場、躍動感あふれる司令塔・**菅原未聖**（3年）や力強い面取りからシュートを確実に決める**達川弥濤**（3年）を擁する**飛龍**、西部3位・**袴田佳奈美**（3年）、**宮澤しなの**（2年）などセンスあふれる選手を多く抱える**西遠女子**などにも注目したい。さらには今大会男女通じて唯一の初出場校となる**富岳館**が初勝利をつかめるか、こちらも楽しみである。